

令和5年度 第64回神戸市少年団野球リーグ全市大会 申合せ事項

R5. 6. 20 (火)

1. 出場資格について

- ・その年度に神戸市少年団野球リーグに登録したチーム。ただし、4年生単独チームには出場資格を与えない。

2. 各地区別出場チーム数について

- ・野球リーグ実行委員会で決定する。地区委員会承認チーム数が極端に少ない地区の出場数については、前述の委員会で審議する。

3. 出場選手について

- ・第64回全市大会出場者一覧表に記載の選手とする。
- ・救済措置について（少子化対策）
チーム部員が11人未満のチームは救済措置を受けることができる。

- ・1学年下の選手を補充すること
 - ・補充を受けたチーム部員が総勢12人以上にならないこと
 - ・試合前に対戦相手チーム、審判に救済措置の適用を受けていることを伝えること
- ※ 追加される選手が毎回同じであれば補強、選手が異なっていれば補充、という判断基準で補充のみを救済措置として認める。補充する選手の出場は1試合のみ認める。

※ダッグアウト内について

- ・ダッグアウトには、本部に提出のあった部員、指導者（部長・監督・コーチ・記録員等）5名まで、熱中症対策として保護者1名に限り入れる。
- なお、大会中・試合中にダッグアウトに入るコーチが交代する場合は、あらかじめ、全市大会出場者一覧表に登録しておくこととする。交代する際は、必ず大会役員または競技役員に申告すること。

4. 試合前 ※アップ場所については、各会場責任者の指示に従ってください。

- (1) 攻守のトス・メンバー表交換・ルール確認について（球審が立ち会う）
 - ・試合45分前もしくは前の試合の4回頃に各会場本部で案内
 - ・本部前へキャプテンと監督を招集（メンバー表5部を持って）
 - ※ メンバー表には必ずふりがなを明記する。
- (2) 入場について
 - ・「ゲームセット」のコールの後、前試合のチームが退場してから入場する。（混雑を避けるため）
 - ・各球場の役員の指示に従う。
 - ・荷物を置き、ノック・キャッチボールの用意をする。（ノックは後攻チームから）
 - ・第1試合の場合は本部の指示で入場し、キャッチボール・ノックを始める。（トスバッティング）
 - ・大会運営上、ノックができない場合がある。
 - ・用具の確認点検をうける。（バット、ヘルメット、キャッチャー防具 グラブのひもの長さ、ピッチャーグラブの色、サングラス 等）
- (3) ブルペンの使用について

- ・ メンバー表交換終了後、本部の指示により、次試合チームのバッテリー4名まで（指導者が付き添うこと）に限りブルペンを使用することができる。
 - ・ 試合の状況を見ながら本部が指示をするので、自チームの判断で入場することがないようにする。
 - ・ 投球練習の際に指導者が捕手を行うことができる。
- (4) グラウンド整備について
- ・ ノック終了後、ベンチ入り指導者より2名、グラウンド整備に協力すること

5. 試合中

- (1) 攻守交代はかけ足
- ・ 監督コーチが進んで指示をする。
 - ・ 残塁のランナーはベンチへ帰らない。他の野手がグラブを持っていく。
- (2) ネクストバッターサークル
- ・ バットを持って腰を下ろして待つ。
 - ・ バットを振るところではない。
 - ・ 次の打者が入る。
- (3) バットは投げない。
- ・ 控えの選手でバットを引く選手を決めておく。
- (4) 準備投球
- ・ 初めの回…5球 次の回…3球
 - ※ 指導者が捕手を行うことができる。
- (5) 回の途中の投手交代
- ・ その他の野手の練習は認めない。（ボールまわしなど）
- (6) 給水
- ・ 2. 4回終了後、給水時間（各3分程度）を設ける。それ以外にも適宜、水分補給をすること。
 - ・ 守備時間を計測し、10分を経過し試合の流れを考慮し、15分を目安に休憩、給水等の時間をとる。
 - ・ チームには事前に了承しておいてもらい、審判団の判断によりその時間をとることができる。
- (7) 投球制限
- ・ 投手は1日に3回および70球を投球制限とする。イニングごとに球数を案内し、カウントの差異が生じた場合は本部の球数に従う。

6. 試合後

- (1) あいさつ後、すみやかにベンチを空け退場する。

7. ボールパーソン

- (1) ボールパーソンはビブスを着用すること。ヘルメットの着用は不要。4年生以上で試合に出場しない選手が望ましい。
- (2) 試合前に審判より役割の説明がある。
- (3) 試合開始、試合終了のあいさつはその場で同じようにあいさつをする。
- (4) ボールの回収

- ・ バックネット付近のボールを回収し、球審に渡す。(球審の指示で)
- ・ バックネット付近以外のファールボールは、ベンチの選手で回収し、ボールパーソンに渡す。
- ・ グラブは使ってよいが、グラウンドには置かない。

※バット引きはベンチの選手とする。

(5) 熱中症に留意する。

- ・ 適宜、水分補給をする。

8. 特別ルール

(1) ホームランラインについて

G7 スタジアム神戸、あじさいスタジアム北神戸（メイン、サブ）、三木総合防災公園野球場、押部谷公園、希望・ドリーム球場、菊水公園の会場では、ホームランラインは設けずフリーとする。その他の会場については、各会場責任者の判断に従う。

(2) 頭部の死球について

- ・ 頭部に死球があった場合、臨時代走を出すこと。
- ・ 臨時代走は、当該打者の前位の打者、ただし投手や捕手は除く。

9. その他

(1) 投手について投球前（サインを見るとき）は投手板を踏む。

- ① 返球時は、投手も捕手も近寄って返球しない。
- ② ローゼンは認める。(各チームで用意する。)

(2) ボークについて

- ① 攻撃側にいちじるしく不利にならなければ、1回目は注意指導する。
※1回目でもボークを適用する場合あり。

(3) ハーフスイング

- ① 野手およびベンチからのリクエストはしない。
- ② 球審の判断で塁審にリクエストをする。

(4) 中断について（タイムストップ、ロスタイム）

- ① 審判および本部が必要と認めたときは時間を止める。

(5) 捕手はベンチからマスクをつけて守備位置につく。

(6) 遅延行為について

- ① 時間を引き延ばす態度については（タイムストップをし）注意を与える。注意を聞き入れずに遅延行為を続ける場合には厳しく対処する。

※少年団野球リーグの時間制については、選手の健康を考え、設けてある。その時間内にできるだけ多くのプレイをさせ、両チームが納得できる試合をするのが目的である。勝利のため、時間制を悪用するような行為は禁止する。

(7) 選手のプレイに支障のあるようなヤジについて

- ① 審判および本部がそのベンチに注意を与える。
- ② 応援席からのヤジに対しても同様にベンチに注意を与える。

(8) 応援の旗などは、バックネットやその付近には張らない。

(9) 鳴り物について、プレイに支障があると審判および本部が判断すれば、ただちに中止する。

※選手を励まし、盛り上げる応援は認めるが、相手の選手・応援団や近隣に迷惑をかけるような応援はしないこと。試合に出場している全選手の実力が十分に発揮でき、相手の良いプレイを認め

られるような応援態度であってほしい。

(10) 指導者の服装について

- ① 上着は白無地の襟付きシャツ、下は紺または黒系統でスラックスとする。もしくは、チームのユニフォームを着用してもよいものとする。
- ② シャツはスラックスの中に入れる。
- ③ ユニフォームはロングパンツを禁止する。
- ④ 上着の中に長袖のシャツを着用する場合、チームカラーと同色のものを着用することとする。
- ⑤ 帽子はかならず選手と同じものを着用する。
- ⑥ サングラスを着用する場合、メガネ枠はブラック、ネイビーまたはグレー(ホワイトは不可)とし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。グラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。なお、メーカー名はメガネ枠と同色とする。また、反射するレンズのサングラスの使用は認めない。用具の確認点検の際に申告し、着用の可否を判断する。

(11) 審判員の服装について

- ① 審判員の服装については、上着は水色の審判服、下は黒、紺または灰色のスラックスとする。
(ジャージは不可)
- ② 上着の中に長袖のシャツを着用する場合、黒または紺色のものを着用することとする。

(12) タイムについて(指示やサイン確認のためのタイム)

- ① 攻守それぞれで2回までとする。
- ② 1イニング1回、30秒以内とする。
- ③ 相手のタイム中に指示を与えるのは認め、タイムの回数に入れない。ただし、相手のタイム時間を越えてはいけない。
- ④ イニングの途中の投手交代時(準備投球時)に指示を与えるのは、タイムの回数に入れない。ただし、準備投球の時間を越えてはいけない。
- ⑤ 両チームが同時にタイムをとったときは、両チームの回数とする。

※指示や励ましは必要であるが、時間内に数多くプレイをさせたい。したがって、できるだけベンチ内で指示をし、プレイを止めるのを最小限にし、スムーズな進行ができるようにしてもらいたい。

10. 地区大会と全市大会のルール上の注意事項について

各地区では選手の健康、安全、マナーを考えローカルルールを設けている。しかし、地区によって試合場所や子供の実態に違いがあり、全市大会では全地区のローカルルールを統一することはできない。公平さを保つため、全市大会では少年団野球リーグのルールと公認野球規則に定める規則及び取り決め事項を原則と考え、運営する。

(1) ファールボールの帰塁について

- ・ 一度帰塁すれば、プレイがかかるまでにリードをとってもよい。

(2) 牽制球について

- ・ 自由な足をその塁に直接踏み出せば、牽制できる。

(3) ホームランを打った打者走者にふれる。

- ・ 審判が援助行為であると判断したときは、アウトである。しかし、ただ単に嬉しさのあまりタッチをしたときは、触れないように注意をする。

※日頃から各チームで、プレイ中に走者にふれないように十分に指導しておく。

試合中に起こりそうなときは、審判が事前に触れないように指示する。

全市大会で不都合が生じたり、ルールの解釈に誤りがあったりした場合は、その都度、本部と審判で協議し、判断していくものとする。ルールについては、選手の健康面、安全面、マナー面を考慮し、また、少年団野球の趣旨を尊重し、検討していくものとする。

11. 用具確認について

用具の安全性、(事故の未然防止) 試合の公平さを保つために行うものとする。

(1) バット

・へこみ…打球の性質が変わるようなへこみがあれば使用できない。(傷はそれに値しない。)

※ 審判、本部役員の判断とする。

※ 今使っているものを使わせたい。

・**金属バットは、少年野球用でJ SBBマークがあるもの。木製バットの使用は認めない。**

(2) ヘルメット

・ひび割れ

・耳あての中のパットがあるか

(3) キャッチャー用具

・ひび割れ、金具のはずれ、ゴムの緩み

※膝の部分のひび割れ・裂け目は、応急処置が施してあれば認める。

(4) グラブ

・2色になっていないか(ピッチャー時に使用するグラブ)

・ひもが長くなっていないか(野手が使用するグラブも)

(5) スパイク

・ゴム製のソールのシューズを使用すること(金属製のものは禁止)

(6) サングラス

・メガネ枠はブラック、ネイビーまたはグレー(ホワイトは不可)であるか

・メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内であるか

・ガラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内であるか

・メーカー名はメガネ枠と同色であるか。

・反射するレンズのサングラスを使用していないか。

用具については日頃から、十分に点検手入れをし、事故の未然防止とともにプレイが十分にできるように心がけ、全市大会で使えなくなるようなことが起こらないように留意してもらいたい。

12. 試合時のアナウンスについて

試合時のアナウンスはG7 STADIUM KOBE 開催試合を除き、準決勝・3位決定戦・決勝のみとする。

13. 試合時のスコアボード操作について

※放送室からの写真など撮影行為は禁止とする。

各チーム1名(指導者または保護者)、試合時にスコアボードの操作を担当する。 ※途中交代不可

14. 試合時の球数のカウントについて

各チーム1名(指導者)、試合時に球数のカウントを担当する。 ※途中交代不可

15. 警報等発令時の対応について

試合中に、神戸市内・三木市内に各特別警報・警報が発令された場合は、試合を中断する。その後、総務・審判員の協議により続行不可能と認められるときは、続行不可能と認められた時点で次の(1)(2)(3)のいずれかに該当しているときは、コールドゲームとして試合の成立を認める。

(1) 4回の表裏を完了しているとき。

(2) 4回表を終わった際、または4回裏の途中で続行不可能と認められた試合で、後攻チームの得点が先攻のチームの得点より多いとき。

(2) 4回裏の攻撃中に後攻チームが得点して、先攻チームの得点と等しくなっているとき。

その他の対応については次項、下記 [大会開催に関する注意事項](#) 参照

大会開催に関する注意事項

| | |
|---------------|---|
| 事前に開催が危ぶまれる場合 | 前日までに判断し、大会予定日を順延する場合は、各区事務局に連絡。事務局→各区出場チーム部長へ連絡。 |
| 警報 | 午前7時現在、神戸市内(三木市)に各特別警報・警報が発令されている場合は、開催を延期または中止する。 |
| 交通機関 | 地震など、天変地異により公共交通機関の運転が停止した場合、警報等の発令に関係なく開催を延期または中止することがある。 |
| 熱中症対策 | <ul style="list-style-type: none">・守備時間を計測し、10分を経過し試合の流れを考慮し、15分を目安に休憩、給水等の時間をとる。・チームには事前に了承しておいてもらい、審判団の判断によりその時間をとることができる。・前日までに高温になることが予想される場合、第1, 2試合は上記 熱中症対策 で実施する。 |
| 予備日を使い切った場合 | <ul style="list-style-type: none">・6日をもって試合日程が消化しきれない場合、公式記録としては、その時点での記録で終了。例) ベスト8、ベスト4など |